# 授業計画
# （シラバス）

令和８年度
２年（３１回生）

中津ファビオラ看護学校
看護学科

| 科目名 | 病理学疾病論Ⅱ | | 担当講師 | 村上右児(医師)荻原　健（医師）<br>小路眞護(医師)　末廣朋耒(医師) |
|---|---|---|---|---|
| 開講年次 | ２年生前期・後期 | | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義 | | 時間数 | ３０時間 |
| 学習目的 | 病理学総論をふまえ、疾患の治療・検査について理解し、専門分野と関連付けて学ぶ | | | |
| 学習目標 | 臨床における各疾患の病態生理・症状・治療・検査について理解できる | | | |
| 授業計画 | 回数 | 担当講師 | 授業計画 | |
| | 第１回 | 村上右児 | 食道の疾患 | 教科書を読んでおく |
| | 第２回 | 村上右児 | 胃の疾患 | 教科書を読んでおく |
| | 第３回 | 村上右児 | 腸の疾患 | 教科書を読んでおく |
| | 第４回 | 荻原　健 | 肝臓・胆嚢・膵臓の機能の障害と治療<br>１）肝臓・胆嚢・膵臓の炎症と治療<br>２）肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍と治療<br>３）胆汁代謝・排泄の障害と治療 | |
| | 第５回 | 荻原　健 | | |
| | 第６回 | 荻原　健 | | |
| | 第７回 | 荻原　健 | | |
| | 第８回 | 小路眞護 | 内分泌疾患 | 教科書･配布プリントの予習･復習 |
| | 第９回 | 小路眞護 | 甲状腺疾患 | 教科書･配布プリントの予習･復習 |
| | 第１０回 | 小路眞護 | 糖尿病 | 教科書･配布プリントの予習･復習 |
| | 第１１回 | 小路眞護 | 脂質異常症・その他の代謝疾患 | 教科書･配布プリントの予習･復習 |
| | 第１２回 | 末廣朋耒 | アレルギー・膠原病・感染症と治療<br>１）アレルギー疾患と治療<br>２）自己免疫疾患と治療<br>３）感染と治療 | |
| | 第１３回 | 末廣朋耒 | | |
| | 第１４回 | 末廣朋耒 | | |
| | 第１５回 | 末廣朋耒 | | |
| 成績評価方法 | 終講試験(ペーパーテスト)<br>各講師25点を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする | | | |
| 教科書 | 系統看護学講座　専門分野　消化器疾患患者の看護　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　内分泌・代謝疾患患者の看護　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　アレルギー疾患・膠原病・感染症患者の看護　医学書院 | | | |
| 参考図書 | | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 備考<br>(学生へのメッセージ) | | | | |

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">病理学疾病論Ⅲ</td><td>担当講師</td><td>吉尾正治(医師)末廣朋耒(医師)<br>川嶌眞人(医師)</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="2">２年生前期・後期</td><td>単位数</td><td>１単位</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="2">講義</td><td>時間数</td><td>２０時間</td></tr>
<tr><td>学習目的</td><td colspan="4">病理学総論をふまえ、疾患の治療・検査について理解し、専門分野と関連付けて学ぶ</td></tr>
<tr><td>学習目標</td><td colspan="4">臨床における各疾患の病態生理・症状・治療・検査について理解できる</td></tr>
<tr><td rowspan="9">授業計画</td><td>回数</td><td>担当講師</td><td>授業計画</td><td>備考（準備・予習・復習など）</td></tr>
<tr><td>第１回</td><td>吉尾正治</td><td rowspan="3">腎機能・泌尿器の障害と治療<br>１）腎臓の炎症と治療<br>２）腎臓と腫瘍と治療<br>３）泌尿器疾患と治療</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>第２回</td><td>吉尾正治</td></tr>
<tr><td>第３回</td><td>吉尾正治</td></tr>
<tr><td>第４回</td><td>末廣朋耒</td><td rowspan="2">血液・造血にかかわる諸機能の障害とその治療<br>１）貧血と治療<br>２）出血傾向<br>３）白血球減少症<br>４）造血器の腫瘍</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>第５回</td><td>末廣朋耒</td></tr>
<tr><td>第６回</td><td>川嶌眞人</td><td rowspan="3">運動器の障害と治療<br>１）骨粗鬆症<br>２）リウマチ<br>３）骨感染症<br>４）骨折・人工関節</td><td rowspan="3">グループ発表あり</td></tr>
<tr><td>第７回</td><td>川嶌眞人</td></tr>
<tr><td>第８回</td><td>川嶌眞人</td></tr>
<tr><td>成績評価方法</td><td colspan="4">終講試験（ペーパーテスト）<br>吉尾講師(30点)末廣講師(40点)川嶌講師(30点)を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="4">系統看護学講座　専門分野　腎・泌尿器疾患患者の看護　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　血液・造血器疾患患者の看護　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　運動器疾患患者の看護　医学書院</td></tr>
<tr><td>参考図書</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>備考<br>(学生へのメッセージ)</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

| 科目名 | 病理学疾病論Ⅳ | 担当講師 | 浅井英男(医師)西　博子（医師）<br>里美典子（医師）小泉　堅（医師） |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | ２年生後期 | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | 15時間 |
| 学習目的 | 病理学総論をふまえ、疾患の治療・検査について理解し、専門分野と関連付けて学ぶ | | |
| 学習目標 | 臨床における各疾患の病態生理・症状・治療・検査について理解できる | | |

授業計画

| 回数 | 担当講師 | 授業計画 | 備考（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|
| 第１回 | 浅井英男 | 眼部の構造と生理機能および病態と診断のための検査法 | 様々な組織で構成された眼球と付属器の解剖図を描け、その部位の生理機能を知る |
| 第２回 | 浅井英男 | 主な眼疾患の病変について（前眼部、後眼部） | 様々な眼病変に対する眼領域ならではの特異的な症状と病態を理解する |
| 第３回 | 西　博子 | 耳鼻・咽喉疾患 | |
| 第４回 | 西　博子 | 耳鼻・咽喉疾患 | |
| 第５回 | 佐藤典子 | 皮膚の構造と疾患 | 皮膚の構造と疾患の病態・検査・治療について理解しておく |
| 第６回 | 佐藤典子 | 皮膚疾患の看護 | |
| 第７回 | 小泉　堅 | 口腔機能・病理 | |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験(ペーパーテスト)、授業態度を含む<br>浅井講師30点・西講師30点・里美講師30点・小泉講師10点を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする |
| 教科書 | 系統看護学講座　専門分野　皮膚　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　眼　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　耳鼻咽喉　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　歯・口腔　医学書院 |
| 参考図書 | |
| 関連科目 | |
| 備考<br>(学生へのメッセージ) | |

| 科目名 | 病理学疾病論Ⅰ | 担当講師 | 山崎宏司　(医師)<br>小路高史(医師)<br>西川　渉（医師） |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | ２年生前・後期 | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | ３０時間＋試験１時間 |
| 学習目的 | 病理学総論をふまえ、疾患の治療・検査について理解し、専門分野と関連付けて学ぶ。 | | |
| 学習目標 | 臨床における各疾患の病態生理・症状・治療・検査について理解できる。 | | |

**授業計画**

| 回数 | 担当講師 | 授業計画 |
|---|---|---|
| 第１回 | 山崎宏司 | 呼吸器障害と治療<br>1）感染による気道・肺の炎症と治療（結核も含む）<br>2）気管支喘息と治療<br>3）肺の腫瘍と治療<br>4）急性及び慢性呼吸不全と治療<br>5）呼吸機能の障害による循環機能への影響と治療 |
| 第２回 | 山崎宏司 | |
| 第３回 | 山崎宏司 | |
| 第４回 | 山崎宏司 | |
| 第５回 | 小路高史 | 循環器障害と治療<br>1）出生前の異常による心機能の障害と治療<br>2）後天的に心機能障害を引き起こす疾病と治療<br>3）心筋の酸素欠乏による心機能障害と治療<br>4）心機能の低下をきたした状態と治療<br>5）心臓のリズムの障害と治療<br>6）血液の供給を障害する血液の疾病と治療<br>7）血圧の異常と治療<br>8）循環機能の変化を伴う体温の上昇と治療 |
| 第６回 | 小路高史 | |
| 第７回 | 小路高史 | |
| 第８回 | 小路高史 | |
| 第９回 | 小路高史 | |
| 第１０回 | 小路高史 | |
| 第１１回 | 西川　渉 | 脳・筋機能の障害と治療<br>1）脳血管系と循環器障害の治療<br>2）頭蓋内圧亢進に伴う疾病と治療<br>3）神経変性・脱髄性の疾病と治療<br>4）認知・コミュニケーション機能の障害と治療<br>5）微生物の中枢神経への感染<br>6）頭部の外傷と治療<br>7）二次的に意識障害・神経障害を起こす疾病と治療<br>8）神経・筋疾患と治療 |
| 第１２回 | 西川　渉 | |
| 第１３回 | 西川　渉 | |
| 第１４回 | 西川　渉 | |
| 第１５回 | 西川　渉 | |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験(ペーパーテスト)<br>試験配分：山崎講師30点　小路講師40点　西川講師30点を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする。 |
| 教科書 | |
| 参考図書 | |
| 関連科目 | 今後学ぶ疾患・看護につながる |
| 備考<br>(学生へのメッセージ) | |

| 科目名 | 成人看護学方法論Ⅰ | 担当講師 | 友松恵里(看護師)成吉章江(看護師) 廣田美和子(看護師) |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | ２年生前期・後期 | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | ３０時間 |
| 学習目的 | 様々な健康レベルにある人々の健康問題とその看護を学ぶ | | |
| 学習目標 | １．循環器疾患を持つ患者の看護が理解できる<br>２．呼吸器疾患を持つ患者の看護が理解できる<br>３．血液・造血器疾患を持つ患者の看護が理解できる<br>４．脳神経疾患を持つ患者の看護が理解できる<br>５．各成人看護学の分野においての医療安全が理解できる | | |

**授業計画**

| 回数 | 担当講師 | 授業計画 | 備考（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|
| 第１回 | 成吉章江 | 循環器<br>１）循環器疾患における医療の動向と看護<br>２）主な疾患とアセスメント<br>３）検査・治療・手術を受ける患者の看護<br>（１）心電図（２）画像検査（３）心臓カテーテル検査・治療<br>４）主な疾患と看護<br>（１）心不全　（２）虚血性心疾患<br>（３）不整脈　（４）高血圧<br>５）循環器疾患における医療安全 | |
| 第２回 | | | |
| 第３回 | | | |
| 第４回 | | | |
| 第５回 | | | |
| 第６回 | 友松恵里 | 呼吸器疾患における医療の動向主な疾患とアセスメント<br>検査・治療・手術を受ける患者の看護 | |
| 第７回 | | 検査・治療・手術を受ける患者の看護<br>主な疾患と看護 | |
| 第８回 | | 人工呼吸器装着患者の看護 | DVD |
| 第９回 | | 胸部フィジカルアセスメント<br>呼吸リハビリテーション | |
| 第10回 | 廣田美和子 | 血液・造血器<br>１）主な理解と看護<br>（１）赤血球系の疾患と看護<br>①鉄欠乏性貧血　②巨赤芽球性貧血<br>③再生不良性貧血　④溶血性貧血<br>（２）白血球系の疾患と看護<br>（３）出血性疾患と看護<br>①血管異常による出血性疾患<br>②血小板異常による出血性疾患<br>③凝固系異常による出血性疾患<br>④播種性血管内凝固症候群 | |
| 第11回 | | | |
| 第12回 | | | |
| 第13回 | 成吉章江 | 脳神経<br>１）脳神経疾患における医療の動向<br>２）症状の理解と看護<br>（１）意識障害（２）頭蓋内亢進症状<br>（３）高次脳機能障害　（４）運動機能障害<br>（５）感覚機能障害<br>３）検査・治療と看護<br>４）主な疾患と看護<br>（１）脳血管障害　（２）脳腫瘍<br>（３）神経変性・脱髄性疾患<br>５）脳神経疾患看護における医療安全<br>（１）ドレーン管理　（２）意識障害時の安全管理 | |
| 第14回 | | | |
| 第15回 | | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験（ペーパーテスト）<br>成吉教員（55点：循環器35点・脳神経20点）友松教員（25点）廣田教員（20点）を合計し100点を満点とし、60点以上を合格とする |
| 教科書 | 系統看護学講座　専門分野　呼吸器疾患患者の看護　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　循環器疾患患者の看護　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　血液・造血器疾患患者の看護　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　脳・神経疾患患者の看護　医学書院 |
| 参考図書 | |
| 関連科目 | 解剖生理学、病理学疾病論、成人看護学目的対象論・方法論Ⅱ、看護学実習 |
| 備考<br>(学生へのメッセージ) | |

| 科目名 | 成人看護学方法論Ⅱ | 担当講師 | 甲斐結香（看護師）・岡部孝人（看護師）・岩渕郁子（看護師）・酒井佳子（看護師） |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | 2年生前期 | 単位数 | 1単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | 20時間 |
| 学習目的 | 様々な健康レベルにある人々の健康問題とその看護を学ぶ | | |
| 学習目標 | 1．消化器系疾患を持つ患者の看護が理解できる<br>2．内分泌・代謝系疾患を持つ患者の看護ができる<br>3．アレルギー・膠原病・感染症を持つ患者の看護が理解できる<br>4．各成人看護学の分野においての医療安全が理解できる | | |

**授業計画**

| 回数 | 担当講師 | 授業計画 | 備考（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 甲斐結香 | 消化器<br>1）消化器疾患における医療の動向と看護<br>2）消化器疾患症状の理解と看護<br>3）検査・治療・手術を受ける患者の看護<br>（1）検体検査（糞便・肝機能検査）<br>（2）内視鏡検査・生検<br>（3）放射線検査（4）薬物療法<br>（5）食事療法　（6）手術療法<br>4）主な疾患と看護<br>（1）消化器の疾患<br>（2）肝臓・胆嚢の疾患<br>（3）膵臓の疾患<br>5）消化器疾患看護における医療安全 | |
| 第2回 | 岡部孝人 | | |
| 第3回 | 岩渕郁子 | | |
| 第4回 | 酒井佳子 | | |
| 第5回 | 酒井佳子 | | |
| 第6回 | 廣田美和子 | 内分泌・代謝<br>1）内分泌・代謝疾患における医療の動向と看護<br>2）症状の理解と看護<br>3）内分泌疾患の看護<br>（1）甲状腺疾患（2）視床下部ー下垂体系疾患<br>（3）その他の疾患<br>4）代謝疾患の看護<br>（1）糖尿病　（2）脂質異常症<br>5）内分泌・代謝疾患看護における医療安全<br>（1）糖尿病薬物療法に関する安全管理 | |
| 第7回 | 廣田美和子 | | |
| 第8回 | 廣田美和子 | | |
| 第9回 | 廣田美和子 | アレルギー・膠原病疾患看護<br>1）アレルギー・膠原病・感染症<br>（1）アレルギー・膠原病における医療の動向と看護<br>（2）アレルギー症状に対する看護<br>（3）アレルギー疾患を持つ患者の看護<br>（4）膠原病の検査・治療を受ける患者の看護（4）膠原病患者の看護 | |
| 第10回 | 廣田美和子 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験（ペーパーテスト）　廣田教員（50点）、甲斐講師（10点）、岡部講師（10点）、岩渕講師（10点）、酒井講師（20点）を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする |
| 教科書 | 系統看護学講座　専門分野　消化器疾患患者の看護　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　内分泌・代謝疾患患者の看護　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　アレルギー疾患・膠原病・感染症患者の看護　医学書院 |
| 参考図書 | |
| 関連科目 | |
| 備考（学生へのメッセージ） | |

| 科目名 | 成人看護学方法論Ⅲ | 担当講師 | 中務聖馬(看護師)友松恵里（教員)海藤望（教員）松本芙美子（看護師）廣田美和子（教員） |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | ２年生前期 | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | 20時間 |
| 学習目的 | 様々な健康レベルにある人々の健康問題とその看護を学ぶ。 | | |
| 学習目標 | １．感染症をもつ患者の看護が理解できる。<br>２．感覚器系疾患を持つ患者の看護が理解できる。<br>３．運動器系疾患を持つ患者の看護が理解できる。<br>４．排泄器脳疾患を持つ患者の看護が理解できる。<br>５．性・生殖器・乳腺疾患をもつ患者の看護が理解できる。 | | |

**授業計画**

| 回数 | 担当講師 | 授業計画 | 備考（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 中務聖馬 | 感染症の看護<br>（１）感染症医療の動向<br>（２）感染症予防<br>（３）感染症疾患をもつ患者の看護<br>①SARS ②HIV ③MRSA | |
| 第2回 | | | |
| 第3回 | 友松恵里 | 感覚器疾患看護（耳鼻咽喉） | |
| 第4回 | | 感覚器疾患看護<br>（眼科・皮膚・口腔） | |
| 第5回 | 松本芙美子 | 運動器疾患と看護 | |
| 第6回 | | | |
| 第7回 | 海藤望 | 排泄機能系看護 | |
| 第8回 | | | |
| 第9回 | 廣田美和子 | 女性生殖器系看護 | |
| 第10回 | | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験（ペーパーテスト）　中務講師20点、友松教員20点、海藤教員20点、松本教員20点・廣田教員20点を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする |
| 教科書 | 系統看護学講座　専門分野　アレルギー・膠原病・感染症　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　運動器　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　腎泌尿器　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　女性生殖器　医学書院 |
| 参考図書 | |
| 関連科目 | |
| 備考<br>(学生へのメッセージ) | |

| 科目名 | 老年看護学方法論Ⅰ | 担当講師 | 植田聡子(看護師) |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | ２年生前期 | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | 20時間 |
| 学習目的 | 老年者の特徴を捉え、高齢者の健康問題の特徴と看護の視点を学ぶ。 | | |
| 学習目標 | １．高齢者の健康、自立を支えるための看護を理解できる。<br>２．高齢者に起こりうる疾患や症候が理解できる。<br>３．高齢者の | | |

| 授業計画 | 回数 | 授業計画 | 備考（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|
| | 第１回 | 高齢者の日常生活活動と機能とアセスメント | 老年看護学5章　老年看護病態・疾患論3章 |
| | 第２回 | 転倒・廃用症候群の看護 | |
| | 第３回 | 食事と排泄障害の看護 | |
| | 第４回 | 清潔、生活リズムと看護 | |
| | 第５回 | コミュニケーションと看護 | |
| | 第６回 | 症候のアセスメントと看護 | 老年看護学6章　老年看護病態・疾患論2章 |
| | 第７回 | 身体疾患のある高齢者の看護 | |
| | 第８回 | 認知機能障害のある高齢者の看護 | 老年看護学6章　老年看護病態・疾患論4章 |
| | 第９回 | | |
| | 第10回 | 高齢者の生活機能を支える看護演習 | 老年看護学6章　老年看護病態・疾患論4章 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験（ペーパーテスト）１００点満点とし、６０点以上を合格とする |
| 教科書 | 系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　老年看護病態・疾患論　医学書院 |
| 参考図書 | |
| 関連科目 | |
| 備考<br>(学生へのメッセージ) | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 老年看護学方法論Ⅱ | 担当講師 | 植田聡子(看護師) |
| 開講年次 | ２年生後期 | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | 20時間 |
| 学習目的 | 高齢者の個別性に応じた看護の特徴と、その人らしさや人生の終焉まで地域で暮らし続ける支援を理解する。 | | |
| 学習目標 | １．受療形態に応じた高齢者の看護が理解できる。<br>２．治療・介護を必要とする高齢者およびの家族の看護を理解することができる。<br>３．高齢者の特徴と健康障害の特徴をふまえ、生活機能に着目した看護過程の展開方法を理解することができる。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 授業計画 | 備考（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|
| | 第１回 | 治療を受ける高齢者の看護（検査、手術、入院） | 老年看護学7章　老年看護　病態・疾患論5-6章 |
| | 第２回 | | |
| | 第３回 | | |
| | 第４回 | 事例による看護過程の展開, | 老年看護学　老年看護　病態・疾患論 |
| | 第５回 | | |
| | 第６回 | | |
| | 第７回 | | |
| | 第８回 | | |
| | 第９回 | | |
| | 第１０回 | まとめ | |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験(ペーパーテスト100点満点とし、60点以上を合格とする。（看護過程も点数に含む） |
| 教科書 | 系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾病論　医学書院 |
| 参考図書 | |
| 関連科目 | |
| 備考<br>(学生へのメッセージ) | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 小児看護学方法論Ⅰ | 担当講師 | 伊藤創太郎(医師)本田貴予(医師)久持聖子(医師)福島直喜(医師)小杉雄二郎(医師)秋本竜矢(医師) |
| 開講年次 | ２年生前期・後期 | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | 30時間 |
| 学習目的 | 小児期にみられる主要な健康障害について学び、また、障害をもつ小児の看護について学ぶ。 | | |
| 学習目標 | 主要な健康障害の病態及びその看護が理解できる。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 担当講師 | 授業計画 | 備考（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|---|
| | 第１回 | 福島直喜 | 腎・泌尿器および生殖器疾患 | ・急性糸球体腎炎・尿道下裂・鎖肛 |
| | 第２回 | 福島直喜 | 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 | ・ダウン症候群 |
| | 第３回 | 小杉雄二郎 | 消化器疾患 | ・肥厚性幽門狭窄症<br>・胆道閉鎖症・腸重積・口唇裂・口蓋裂<br>・ヒルシュスプルング病 |
| | 第４回 | 小杉雄二郎 | 新生児 | ・新生児仮死・低出生体重児 |
| | 第５回 | 秋本竜矢 | 呼吸器疾患 | ・気管支喘息・急性咽頭炎・急性細気管支炎 |
| | 第６回 | 秋本竜矢 | 内分泌・代謝性疾患疾患 | ・1型糖尿病・新生児マススクリーニング |
| | 第７回 | 秋本竜矢 | | ・成長ホルモン分泌不全 |
| | 第８回 | 秋本竜矢 | 循環器疾患 | ・先天性心疾患・川崎病 |
| | 第９回 | 福島直喜 | 神経および運動器疾患 | ・二分脊椎・先天性水頭症・てんかん熱性けいれん・脳性麻痺 |
| | 第１０回 | 伊藤創太郎 | 免疫・アレルギー性疾患<br>膠原病 | ・アレルギー性疾患・免疫系の発達 |
| | 第１１回 | 伊藤創太郎 | | |
| | 第１２回 | 久持聖子 | 血液・造血器疾患<br>子どもの虐待 | ・血友病・白血病・紫斑病<br>・虐待の現状と対策・多職種の連携・協働 |
| | 第１３回 | 久持聖子 | | |
| | 第１４回 | 本田貴予 | 感染症 | ・ウイルス感染症・細菌感染症 |
| | 第１５回 | 本田貴予 | 悪性新生物 | ・神経芽腫・ウイルムス腫瘍・脳腫瘍 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験<br>伊藤講師(15点)本田講師(15点)久持講師(15点)福島講師(20点)小杉講師(15点)秋本講師(20点)を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする |
| 教科書 | 系統看護学講座　専門分野　小児臨床看護各論　医学書院 |
| 参考図書 | |
| 関連科目 | |
| 備考<br>(学生へのメッセージ) | |

| 科目名 | 小児看護学方法論Ⅱ | 担当講師 | 海藤望(看護師) |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | ２年生前期・後期 | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | 20時間 |
| 学習目的 | 小児期にみられる主要な健康障害について学び、また、障害をもつ小児の看護について学ぶ。 | | |
| 学習目標 | １．健康課題をもつ子どもと家族への看護について理解できる。<br>２．小児看護の思考過程を学ぶ。<br>３．小児看護で必要となる看護技術を修得する。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 授業計画 | 備考（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|
| | 第１回 | 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護 | |
| | 第２回 | | |
| | 第３回 | | |
| | 第４回 | | |
| | 第５回 | 成長発達アセスメントシートによる看護過程の展開 | 【気管支喘息】 |
| | 第６回 | | 【気管支喘息】<br>※教員より指導を受けて追加修正 |
| | 第７回 | | 【気管支喘息】 |
| | 第８回 | | 【看護過程の発表会】 |
| | 第９回 | 小児看護技術 | 【演習】サークルベットの取り扱い バイタルサイン測定・吸引・吸入・輸液管理（シーネ固定） |
| | 第１０回 | | |

| 成績評価方法 | 終講試験（ペーパーテスト）、講義内評価を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする |
|---|---|
| 教科書 | 系統看護学講座　専門分野　小児臨床看護各論　　医学書院 |
| 参考図書 | 国民衛生の動向 |
| 関連科目 | 成人看護学・母性看護学・精神看護学 |
| 備考（学生へのメッセージ） | 授業時間外の学習として疾患ワークシート・小児看護技術・小児看護過程を行います |

| 科目名 | 母性看護学方法論Ⅰ | 担当講師 | 河野弘美（助産師）横山恵吏香（助産師） |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | ２年生後期 | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | 30時間 |
| 学習目的 | 妊娠・分娩・産褥期を通して、母子の健康を維持・促進し、母子及びその家族に対して必要な看護を学ぶ。 | | |
| 学習目標 | １．母性の発揮を促す看護が理解できる。<br>２．妊娠・分娩・産褥の経過と看護が理解できる。<br>３．新生児の経過と看護が理解できる。 | | |

**授業計画**

| 回数 | 授業計画 | 担当講師・教員 |
|---|---|---|
| 第１回<br>第２回<br>第３回<br>第４回<br>第５回<br>第６回<br>第７回<br>第８回 | １．母子の発揮を促す看護<br>１）子どもを産み育てるということ<br>２）遺伝相談<br>３）不妊治療と看護<br>２．妊娠期における看護・妊娠の生理<br>１）胎児の発達とその生理<br>２）母体の生理的変化<br>３）妊娠の生理<br>４）妊婦と家族および社会<br>５）妊娠の経過と診断<br>６）胎児の発達と健康状態の診断<br>７）妊婦と胎児の健康状態のアセスメント<br>８）妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント<br>９）妊婦の保健相談と実際<br>10）親になるための準備<br>３．分娩期における看護<br>１）分娩の要素<br>２）分娩経過<br>３）産婦と胎児の健康状態のアセスメント<br>４）産婦と家族の心理・社会面のアセスメント及び看護上の問題<br>５）看護目標と産婦のニード<br>６）安全安楽な分娩の看護<br>７）出産体験が肯定的になる為の看護<br>８）基本的ニードに関する看護<br>９）分娩１期の看護<br>10）分娩２期の看護<br>11）分娩３・４期の看護 | 河野弘美 |
| 第９回<br>第10回<br>第11回<br>第12回<br>第13回<br>第14回<br>第15回 | ４．産褥期おける看護<br>１）産褥経過<br>２）産褥期の心理・社会的変化<br>３）産褥経過の診断<br>４）褥婦の健康状態のアセスメント<br>５）身体機能の回復および進行性変化の看護<br>６）児と関係確立への看護<br>７）育児技術に関わる看護<br>８）家族関係再構築の看護<br>９）育児不安と育児支援<br>10）社会復帰<br>５．新生児期における看護<br>１）新生児とは<br>２）新生児の機能<br>３）新生児の診断<br>４）新生児の健康状態のアセスメント<br>５）出生後から退院までの看護<br>６．周産期における安全<br>１）転倒・転落予防<br>２）取り違い予防<br>３）感染予防<br>４）窒息予防<br>５）低体温予防<br>６）熱傷予防<br>７）連れ去り予防 | 横山恵吏香 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験（ペーパーテスト）・演習<br>河野講師（50点）横山講師（50点）を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする |
| 教科書 | 系統看護学講座　母性看護学各論　医学書院 |
| 参考図書 | |
| 関連科目 | |
| 備考（学生へのメッセージ） | |

| 科目名 | 母性看護学方法論Ⅱ | 担当講師 | 小路綾乃(助産師) 廣田美和子(看護師) |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | 2年生後期 | 単位数 | 1単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | 30時間 |
| 学習目的 | ハイリスク時の状態を理解し、その看護について学ぶ。 | | |
| 学習目標 | 1．ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児の病態と治療・看護が理解できる。<br>2．周産期にある対象の看護過程の展開ができる。 | | |

授業計画

| 回数 | 担当講師 | 授業計画 | 備考（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 小路綾乃 | ハイリスク妊娠・妊娠高血圧症候群<br>妊娠中に注意すべき感染症・異所性妊娠・流早産 | 正常妊娠について復習<br>妊娠週数の理解 |
| 第2回 | | 妊娠高血圧症候群と子癇<br>HELLP症候群と急性妊娠脂肪肝<br>早産の看護<br>分娩時の異常 | 正常分娩の週数<br>帝王切開の適応 |
| 第3回 | | 分娩時の異常<br>回旋異常<br>胎児機能不全とCTG<br>妊娠中禁忌のアロマ | 骨盤と胎児モデルでの実践<br>NSTモニターの用紙の見方(正常・異常) |
| 第4回 | | 帝王切開の適応とクリティカルパスの把握<br>新生児の異常 | 帝王切開について |
| 第5回 | | | |
| 第6回 | | 産褥期の異常<br>精神疾患合併妊娠と看護<br>症例問題 | 正常産褥の経過の復習<br>状況設定問題の解読で理解を深める |
| 第7回 | | | |
| 第8回 | 廣田美和子 | 看護過程<br>産褥期の看護について事例を通して学ぶ<br>・ウェルネスの思考に基づいた看護<br>・実施、評価までのプロセス | |
| 第9回 | | | |
| 第10回 | | | |
| 第11回 | | 沐浴演習 | 評価表に基づいた実施について説明を含む |
| 第12回 | | | |
| 第13回 | | 指導技術発表会 | |
| 第14回 | | | |
| 第15回 | | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験（ペーパーテスト）、看護過程（指導技術）発表評価<br>小路講師（50点）廣田教員（50点）を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする |
| 教科書 | 系統的看護学講座　専門分野　母性看護学各論　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　母性看護学概論　医学書院 |
| 参考図書 | |
| 関連科目 | |

| 備考<br>(学生へのメッセージ) | |
|---|---|

| 科目名 | 精神看護学目的・対象論 | 担当講師 | 田久正代（看護師）田上米一（看護師） |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | ２年生前期・後期 | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | 30時間 |
| 学習目的 | 精神看護学の対象である心について学習し、心の健康の保持・増進の為の援助を学ぶ。 | | |
| 学習目標 | １．看護学における精神看護学の位置づけが理解できる。<br>２．各ライフサイクル別に見られる心の発達と健康問題について理解できる。<br>３．環境が心の健康に及ぼす影響が理解できる。<br>４．危機状況とその介入方法、予防、コンサルテーションが理解できる。<br>５．精神医療の歴史的変遷が理解できる。<br>６．精神保健福祉の法的制度が理解できる。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 授業計画 | 担当講師 | |
|---|---|---|---|---|
| | 第１回 | １．精神看護学で学ぶこと | 田久 | 第１章 |
| | 第２回 | ２．精神（心）のとらえ方 | | 第２章 |
| | 第３回 | | | |
| | 第４回 | ３．精神（心）の発達に関する主要な考え方 | | 第３章 |
| | 第５回 | | | |
| | 第６回 | ４．家族と精神（心）の健康 | | 第４章 |
| | 第７回 | | | |
| | 第８回 | ５．暮らしの場と精神（心）の健康 | | |
| | 第９回 | | | |
| | 第10回 | ６．精神（心）の危機状況と精神保健 | | |
| | 第11回 | | | |
| | 第12回 | | | |
| | 第13回 | ７．現代社会と精神（心）の健康 | 田上 | 第７章 |
| | 第14回 | ８．精神保健医療福祉の歴史と現在の姿 | | |
| | 第15回 | | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験（ペーパーテスト）<br>田久講師（80点）田上講師（20点）を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする |
| 教科書 | 系統的看護学講座　　専門分野　精神看護の基礎　　医学書院 |
| 参考図書 | |
| 関連科目 | |
| 備考<br>（学生へのメッセージ） | |

| 科目名 | 精神看護学方法論Ⅰ | 担当講師 | 藤井障三（医師）萱野友成（看護師） |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | ２年生後期 | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | ３０時間 |
| 学習目的 | 精神に障害を持つ対象の疾患、症状を理解し、精神に障害を持つ対象とその家族に看護する基礎を学ぶ。 | | |
| 学習目標 | １．精神障害が日常生活に及ぼす影響を知り、その看護を理解できる。<br>２．精神に障害を持つ対象の検査及びその看護を理解できる。<br>３．精神に障害を持つ対象の治療及びその看護を理解できる。<br>４．精神科におけるリスクマネジメントの種類と予防策を理解できる。<br>５．精神に障害を持つ対象の家族への援助を理解できる。<br>６．精神保健福祉活動における看護の機能と役割を理解し、看護の課題について考えることができる。<br>７．日本の精神看護の発展について理解できる。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 担当講師 | 授業計画 | | 備考（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|---|---|
| | 第１回 | 藤井障三 | １．精神障害をもつ人の抱える症状と診断のための検査 | １）診察２）一般検査・画像検査<br>３）心理検査 | 第５章<br>第６章 |
| | 第２回 | | ２．主な精神疾患／障害 | １）精神疾患／障害の診断基準・分類<br>２）主な精神疾患／障害 | |
| | 第３回 | | | | |
| | 第４回 | | ３．主な治療法 | １）薬物療法<br>２）電気けいれん療法<br>３）リハビリテーション療法<br>４）精神療法 | |
| | 第５回 | | | | |
| | 第６回 | | | | |
| | 第７回 | | | | |
| | 第８回 | 萱野友成 | ４．精神障害をもつ人との看護援助の展開 | １）看護援助の基本構造 | 第８章 |
| | 第９回 | | | ２）セルフケアの援助 | 第11章 |
| | 第10回 | | | ３）セルフマネジメント | 第12章 |
| | 第11回 | | ５．精神障害をもつ人への看護 | １）事故防止・安全管理と倫理的配慮２）精神疾患／障害をもつ人への看護３）精神疾患／障害をもつ子どもへの看護<br>４）身体疾患を合併している患者への看護 | 第10章 |
| | 第12回 | | | | |
| | 第13回 | | | | |
| | 第14回 | | ６．地域における生活への支援 | １）地域生活の再構築と社会参加<br>２）精神障害をもつ人の地域生活支援の実際<br>３）家族への支援 | 第13章 |
| | 第15回 | | ７．日本の精神看護の発展 | １）リエゾン精神看護<br>２）　司法精神医療と看護<br>３）　災害時の精神看護 | 第14章　第15章　第16章 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験（ペーパーテスト）<br>藤井講師（50点）萱野講師（50点）を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする |
| 教科書 | 系統的看護学講座　精神看護の基礎、　精神看護の展開　　医学書院 |
| | |
| 関連科目 | |
| 備考<br>（学生へのメッセージ） | 多くの事例から精神看護の実践を考える　実践の場での経験から伝えたい |

| 科目名 | 看護研究 | 担当講師 | 後藤成人(大学教授) |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | ２年生前期 | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | ３０時間 |
| 学習目的 | | | |
| 学習目標 | | | |

| 授業計画 | 回数 | 授業計画 | 備考（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|
| | 第１回 | 看護研究とは何のために行うのか | |
| | 第２回 | 看護研究の始め方 | |
| | 第３回 | 看護研究の種類 | |
| | 第４回 | 看護研究の方法と選び方 | |
| | 第５回 | 看護研究のまとめ方 | |
| | 第６回 | 研究結果を発表しよう | |
| | 第７回 | 学会発表の意義と方法 | |
| | 第８回 | 論文投稿の意義と方法 | |
| | 第９回 | ケーススタディを体験してみよう | 自分たちの実習レポートを準備する |
| | 第10回 | テーマの決め方 | 自分たちの実習レポートを準備する |
| | 第11回 | 自分の事例を振り返ろう | 自分たちの実習レポートを準備する |
| | 第12回 | 要旨を書いてみよう | 自分たちの実習レポートを準備する |
| | 第13回 | ポスターセッションをしてみよう | 自分たちの実習レポートを準備する |
| | 第14回 | 発表練習① | 自分たちの実習レポートを準備する |
| | 第15回 | 発表練習② | 自分たちの実習レポートを準備する |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験・演習　レポートと筆記試験を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする。 |
| 教科書 | 指定なし |
| 参考図書 | 別途資料配布 |
| 関連科目 | |
| 備考<br>(学生へのメッセージ) | 卒業後2年目で研究を任されることが多いため、研究に関する基本的なことを講義とアクティブラーニングの手法で伝えます。 |

| 科目名 | 臨床治療論Ⅱ | 担当講師 | 日高啓(医師) 成吉章江(教員) |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | ２年生前期 | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義 | 時間数 | 15時間 |
| 学習目的 | 看護の視点での臨床検査と、その結果をアセスメントできる基礎的知識を理解できる。 | | |
| 学習目標 | 看護の視点での疾病回復を促進する放射線療法の基本的知識について理解できる。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 担当講師 | 授業計画 | 備考（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|---|
| | 第１回 | 成吉章江 | １．臨床検査の種類とその結果<br>１）一般検査・血液検査<br>２）生理機能検査<br>３）内視鏡検査<br>４）検査の読み取り方<br>（疾患との関連） | |
| | 第２回 | 成吉章江 | | |
| | 第３回 | 成吉章江 | | |
| | 第４回 | 成吉章江 | | |
| | 第５回 | 日高啓 | ２．放射線法<br>１）放射線の性質と検査の種類<br>Ｘ線撮影・ＣＴ・ＭＲＩ<br>核医学検査・超音波検査<br>２）人体に対する放射線の影響<br>３）悪性腫瘍と放射線療法<br>４）放射線防御の基本と健康管理<br>６）画像の読み取り方 | |
| | 第６回 | 日高啓 | | |
| | 第７回 | 日高啓 | | |

| 成績評価方法 | 終講試験（ペーパーテスト）　日高講師50点、成吉教員50点を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする |
|---|---|
| 教科書 | 系統的看護学講座　別巻　臨床検査　医学書院 |
| 参考図書 | |
| 関連科目 | |
| 備考<br>(学生へのメッセージ) | |

| 科目名 | 医療安全 | 担当講師 | 熊智子<br>（看護師・医療安全管理者） |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | 2年生前期 | 単位数 | 1単位 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 時間数 | 30時間 |
| 学習目的 | 医療安全の基礎的知識を理解し、その知識を基に安全に医療・看護を提供できる基礎的能力を養う。 | | |
| 学習目標 | 1. 医療安全の歴史と医療安全を学うえで必要な用語の定義を説明できる。<br>2. 医療安全と看護の責務に関する法令・制度について説明できる。<br>3. 国や医療機関の医療安全対策の取り組みを説明できる。<br>4. 医療事故の発生要因とメカニズムについて説明できる。<br>5. 看護業務に関する主な医療事故の一連の安全対策（背景・要因分析・対策・実施）について説明できる。<br>6. 医療機関（組織）における医療安全管理システムについて、その概要を説明できる。<br>7. 安全な看護を提供するための自己の課題について考察できる。 | | |

| 授業計画 | 授業回数（方法） | 授業計画 | 授業形態 | 授業外学習（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|---|
| | 第 1 回<br>（講義）<br>4/10 | ガイダンス<br>医療安全の意味とその重要性～医療安全をなぜ学ぶのか～<br>1.医療安全の意味とその重要性について<br>2.看護職の法的責任と医療安全について | 登校 | テキスト　第1章<br>※指定した教科書を事前に読んでおくこと。 |
| | 第 2 回<br>（講義）<br>4/17 | 診療の補助の事故防止<br>1）注射業務 | ライブオンライン授業可能 | テキスト　第2章 |
| | 第 3 回<br>（講義）<br>4/24 | 診療の補助の事故防止<br>2）輸液ポンプ・シリンジポンプ | | テキスト　第2章 |
| | 第 4 回<br>（講義）<br>5/1 | 診療の補助の事故防止<br>3）輸血業務<br>4）内服業務 | | テキスト　第2章 |
| | 第 5 回<br>（講義）<br>5/8 | 療養上の世話の事故（GW）<br>1）転倒・転落事故防止<br>2）摂食中の窒息・誤嚥事故防止<br>3）異食事故防止<br>4）入浴中の事故防止 | 登校 | テキスト　第3章 |
| | 第 6 回<br>（講義）<br>5/29 | 診療の補助の事故防止<br>5）経管栄養業務<br>6）チューブ管理 | ライブオンライン授業可能 | テキスト　第2章 |
| | 第 7 回<br>（講義）<br>6/5 | 地域における在宅療養者の安全<br>1.在宅看護における医療事故とその対応について<br>2.在宅看護におけるリスク管理の現状と課題について | | テキスト　第6章 |
| | 第 8 回<br>（講義）<br>6/12 | 医療従事者の安全を脅かすリスクとそれぞれの対策の理解<br>1.感染を伴う病原体への暴露について<br>2.感染に対する標準予防策と感染経路別予防策について<br>3.その他の暴露について<br>4.病院及び訪問看護での暴力について | | テキスト　第7章 |
| | 第 9 回<br>（講義）<br>6/19 | 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント<br>1.ヒューマンエラーの発生メカニズム<br>2.事故分析の考え方と分析方法<br>3.事故分析 | | 資料 |

| | 授業回数（方法） | 授業計画 | 授業形態 | 授業外学習（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 第　10　回<br>（講義）<br>6/26 | 医療事故発生後の対応～医療事故が発生したらあなたは？～<br>1.医療事故発生時の初期対応<br>2.紛争化への防止対策・医療コンフリクト・マネジメント<br>3.患者・家族と医療従事者への支援 | ライブオンライン授業可能 | 資料 |
| | 第　11　回<br>（講義）<br>7/3 | 組織的な安全管理体制への取り組み<br>～一人では防げない！全員参加の医療安全～<br>1.チーム医療と安全文化の醸成<br>2.組織としての安全対策<br>3.医療安全管理者の役割と業務<br>4.医療事故防止のためのコミュニケーション | | テキスト　第8章 |
| | 第12・13回<br>（講義）<br>7/10 | **第12回**<br>医療安全対策の国内外の潮流<br>医療安全とコミュニケーション<br>安全文化のためのコミュニケーション<br>～コミュニケーションをとってみよう！～<br>1.TeamsSTEPPS（チームステップス）の体験<br>**第13回** | 登校 | テキスト　第9章<br>資料 |
| | 第14・15回<br>（個人ワーク）<br>7/17 | テーマ「医療安全における看護職者の役割と自己の課題」<br>個人のレポートに、自分なりのテーマをつけ、<br>自己の考えをまとめてください。<br><br>表紙　自己のテーマ、学籍番号、氏名を記入<br>※　テーマのみ、14P<br><br>レポートの様式設定<br>Ｗｏｒｄの場合<br>文字数・行数設定・・40字・40行<br>A4用紙、MS明朝体、10.5P、<br>文字数1400～1600字<br><br>グーグル　ドキュメントの場合<br>A用紙、上下余白・・3㎝、左右余白・・2㎝<br><br>提出日：令和8年7月17日　授業終了時まで | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験（ペーパーテスト）にて80点、課題レポートにて20点の配点とします。<br>双方合わせて100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。<br>授業態度、グループワークへの取り組み |
| 教科書 | 系統看護学講座　専門　医療安全　看護の統合と実践2 |
| 参考図書 | ナーシング・グラフィカ　医療安全　看護の統合と実践②<br>医療安全ワークブック |
| 関連科目 | 基礎看護技術、感染症、在宅看護論 |
| 備考<br>（学生へのメッセージ） | 医療安全の授業は、自分自身の身を守るために必要な内容です。しっかり学んでください。 |

| 科目名 | 問題解決活用法 Ⅱ | 担当講師 | 南智美(看護師) |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | ２年生前期 | 単位数 | １単位 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 時間数 | 20時間 |
| 学習目的 | 臨床の状況変化にともなう思考・判断ができるよう、臨床的な思考の基礎的能力を学ぶ | | |
| 学習目標 | １．専門分野の領域ごとに治療や療養の場、対象の状況・変化に気づく視点が理解できる。<br>２．専門分野の領域ごとに、必要な情報を収集する視点が理解できる。<br>３．専門分野の領域ごとに、状況や変化に応じて何をすべきか推論する。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 担当講師 | 授業計画 | 備考（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|---|
| | 第１回 | 南智美 | １．臨床判断の基礎知識<br>1)臨床判断とは<br>2)臨床判断の構成概念<br>3)臨床判断のプロセス<br>4)看護過程と臨床判断の関連 | |
| | 第２回 | 南智美 | ２．臨床判断実践シミュレーション | |
| | 第３回 | 南智美 | ３．臨床判断実践シミュレーション | |
| | 第４回 | 南智美 | ４．臨床判断実践シミュレーション | |
| | 第５回 | 南智美 | ５．臨床判断実践シミュレーション | |
| | 第６回 | 南智美 | ６．複数患者対応時の優先順位<br>複数患者事例を通して、優先順位を考える。 | |
| | 第７回 | 南智美 | ７．臨床現場で遭遇する臨床推論事例（腹痛・咳嗽・発熱） | |
| | 第８回 | 南智美 | ８．臨床現場で遭遇する臨床推論事例（腹痛・咳嗽・発熱） | |
| | 第９回 | 南智美 | ９．精神疾患を持つ患者の事例 | |
| | 第１０回 | 南智美 | まとめ | |

| 成績評価方法 | 終講試験（ペーパーテスト）100点満点とし、60点以上を合格とする |
|---|---|
| 教科書 | |
| 参考図書 | 解剖生理学・基礎看護学・臨床看護　等 |
| 関連科目 | |
| 備考<br>(学生へのメッセージ) | |

| 科目名 | 薬物療法と看護 | 担当講師 | 廣田美和子(教員) |
|---|---|---|---|
| 開講年次 | 2年生前期 | 単位数 | 1単位 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 時間数 | 20時間 |
| 学習目的 | 薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び管理について学ぶ。 | | |
| 学習目標 | 1．対象特性と薬物療法の特徴と看護師の役割が理解できる。<br>2．発達段階における薬物療法の特徴と看護師の役割が理解できる。<br>3．薬物療法における多職種との連携について思考できる。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 担当講師 | 授業計画 | 備考（準備・予習・復習など） |
|---|---|---|---|---|
| | 第1回 | 廣田美和子 | 1．薬物療法の基礎知識の確認 | |
| | 第2回 | 廣田美和子 | 2．対象の特性と薬物療法（老年） | |
| | 第3回 | 廣田美和子 | 3．対象の特性と薬物療法<br>（小児・母性） | |
| | 第4回 | 廣田美和子 | 4．ハイリスク患者と薬物療法<br>（腎不全・肝不全） | |
| | 第5回 | 廣田美和子 | 5．成人の薬物療法の指導の実際 | |
| | 第6回 | 廣田美和子 | 6．高齢者の薬物療法の指導の実際 | |
| | 第7回 | 廣田美和子 | 7．小児の薬物療法の指導の実際 | |
| | 第8回 | 廣田美和子 | 8．妊婦の薬物療法の指導の実際 | |
| | 第9回 | 廣田美和子 | 9．精神疾患患者の薬物療法の<br>指導の実際 | |
| | 第10回 | 廣田美和子 | 10．看護師と医師・薬剤師の<br>チーム医療 | |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 終講試験（ペーパーテスト）100点満点とし、60点以上を合格とする |
| 教科書 | 系統的看護学講座　　専門分野　　医学書院 |
| 参考図書 | |

| | |
|---|---|
| 関連科目 | |
| 備考<br>(学生へのメッセージ) | |